

学力分析シート【学年：2年 教科：数学】

実施日：令和2年1月22日 実施テスト名【正進社学力診断問題1年第4回】 作成者【 脇川 倫栄 】

課題が大きいと考えられる問題(正答率が低い、県との差が大きい)

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
3(1)	文字を使って式に表す	8.3	11.7	正・負の数の計算問題は58%～94%、文字と式の計算問題は49%～70%の正答率で、ある程度は定着しているが、基本的な計算に課題がある生徒もいる。この問題は、割合についての理解も必要で、そのため正答率が下がったと考えられる。	割合については、身近な消費税で考える場面をつくり、「2割引」「30%引き」などの表現についても理解し、計算できるようにする。

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
5(1)	分数をふくむ方程式を解く	16.0	17.3	分数をはらうことと符号をまちがえないことの2点で理解ができていないと考えられる。	まずは、方程式の基本問題を確実に解くことができるようにし、その中で符号間違いを減すことができるようにする。文字式の計算の通分と併せて復習することで、分母をはらうやりかたをおさえる。

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
6(1)	方程式を利用して問題を解く	16.7	26.1	問題を読み取り立式すること、さらには過程を明確にして答えを求めることが順序立てて書き表すことができていないと考えられる。このような過不足についての問題は、既習直後の定期試験での正答率よりかなり下がっている。	日頃から、結果だけでなく、結果に至るまでの過程を大切にし、解答づくりをさせる。また、そう考えた理由を説明できるようにする。復習をする必要性を生徒に伝え、その機会をつくる。